



前田 芙美子 議員

みんながって みんないい

違和感なく過ごせる。そういう勉強ができる場はあるか。

福祉部長

未就学児の発達支援事業所や放課後デイサービス事業、児童館、ファミリーサポートセンターがある。

質問

グレーゾーンの子ども達も多いので、一日も早い発見が大切である。保育園や学校の先生に気づいてほしいが。

教育長

就学時健診で身体的検査だけでなく、知的や行動についても詳しく観察する。

質問

発達障害は知的障害の場合を除いてとてもわかりにくい。かわいそうにみんなと同じことをさせられてしまう。場合によっては頭に来て仕返ししてやりたいと思ひ、事件になるような反社会的な行動をとってしまう。彼らに必要なのはサポートであり、どうサポートすればいいかが大きなポイントになるが、どう考えるか。

教育部長

スクールサポートという制度がある。特別支援員の配置や特別非常勤講師もいる。

質問

保護者の願ひは、中高一貫型の特別支援学校の設立である。それは難しいと思ひながら、できれば自立させるためのグループホームを作ってほしい。そうひいう福祉に目を

市長

発達障害の子どもを持つ親の気持ちは、十分に理解している。できる部分については協力していききたい。

向けてくれる市になることを望み、市長の考えを聞きたい。

質問

今、通常の学級に6.5%の発達障害、もしくはその疑ひのある児童・生徒がいることがわかっている。40人の学級に2〜3人いる計算になる。

発達障害は、学校教育では平成8年に初めて発達障害の子ども達がいるという文書が出された新しい障害である。9年に「のび太・ジャイアン症候群」という本が出て、急速に理解されていくようになった。実はのび太君もジャイアンも発達障害児で、のび太君は注意欠陥、ジャイアンは移動性障害である。

質問

発達障害は障害だから基本的には治らない。一生涯発達障害なので、治そうとするのは大きな間違ひだ。周りの人が理解し工夫をすれば、全く

教育部長

先生の増員については、拠点校4校6人で進めている。

